



炬火を掲げていざ謳う

No.19



# 我らの泉鳥取

2022年10月11日(火)

編集・発行 大阪府立泉鳥取高等学校 広報委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

## インターハイ優勝！ 川植宗治さん(11期)

— 円盤投げ 51.00m —

泉鳥取高校は、他校と同様に創立以来部活動にも力を入れてきました。とりわけ創立後20年頃までは、陸上競技部が圧倒的な成績を残していました。昭和63(1988)年、高校生日本一となるインターハイ優勝者が登場しました。現在でも学校の玄関に写真が飾られている、11期生川植宗治さんです。川植さんの活躍を陸上部顧問だった故由井 潔先生の文章から思い出してみましょう。文章は20周年記念誌の抜粋です。

(前略) いよいよ「イズトリ」の名が全国に知れたのが11期生の川植君の快挙でした。1年の時には円盤投げで近畿総体1年の部優勝、同槍投げ2位。しかし冬期練習前に腰痛に苦しみ、2年時は近畿インターハイ8位に終わりました。2年の時には玉田山での走り込み、精神的に強さが増し、全国インターハイに向けて着々と力がついて行きました。円盤投げの全国インターハイ優勝ラインは毎年だいたい52~53mです。彼は全国大会の4日前に学校のグラウンドで53mを記録しました。全国インターハイ当日は、過去最高の調子になり、見事決勝の一投目で全国一を決めてしまいました。25名の部員の熱い声援の中での見事な投てきでした。彼は多くの有名大学の誘いを断り、地道に力強く歩み始めました。決して全国一になった事で他人を見下したり、天狗になったりせず、いつも後輩思いのやさしい先輩であり、今は良き父親です。イズトリらしいと思います。(中略)

19年間、陸上部員と生活を共にし、色々な事を学びました。手助けしてやれず学校を中退していった生徒も多数いました。体を悪くし、練習している仲間に声をか



一九八八年 高校総体での川植さん 陸連春日弘章を受章されました。この投てきで優勝、日本陸上競技を続けました。高校卒業後も社会人として

けながら毎日整地をし続けてくれる部員もいました。くびにした部員が、校舎のかげからそっとグラウンドを見続けていた、という話を後で聞きました。みんなありがとう。イズトリの陸上部を大切にしてくれてありがとう。今後の陸上競技部のますますの発展を期待し、OBとともに見守っていきたいと思います。(1995年20周年記念誌より抜粋)



平成30(2018)年11月、泉鳥取教職員OBの宴会での由井先生。この4か月後の平成31年3月に急逝された。